

岬町落合川で見つかったカワテッポウエビ

和田太一 (NPO 法人南港ウェットランドグループ)

はじめに

カワテッポウエビ *Alpheus* sp. は野村 (1996) で和名が仮称されたテッポウエビ科の未記載種である。筆者は 2025 年 10 月に大阪府泉南郡岬町の落合川で本種を採集した。これは大阪府および大阪湾における初記録と考えられるためここに報告する。

採集地の環境

大阪府泉南郡岬町を流れる二級水系の東川水系で、東畑地区から流れる東川、西畑地区から流れ出る西川が河口より約 300m 上流の地点で合流して大阪湾へ注いでおり、東川の河口部である河口から約 300m 上流の合流点までの区間は「落合川」とも呼ばれており、本報告ではこの名称を使用する。

落合川は干潮時には拳大から人頭大の転石が多い砂礫底が広く干出し、右岸寄りに浅い滞筋が流れている。2025 年 10 月 19 日の干潮時に、右岸に設置されている水門の周辺でタモ網を用いて転石下に潜んでいる生物を調べていた際にカワテッポウエビ 1 個体を採集した。同所的にオハグロガキモドキ類 *Saccostrea* cf. *circumsuta* (Gould, 1850)、スジエビモドキ *Palaemon serrifer* (Stimpson, 1860)、タイワンガザミ *Portunus pelagicus* (Linnaeus, 1758)、ケフサイソガニ *Hemigrapsus penicillatus* (De Haan, 1835)、チゴイワガニ *Ilyograpsus nodulosus* T. Sakai, 1983 が見られた。

検討標本

カワテッポウエビ *Alpheus* sp.

2025 年 10 月 19 日 大阪府泉南郡岬町多奈川谷川 落合川 雄 1 個体 体長 23 mm。

採集個体は 80%エタノール水溶液で液浸標本にして貝塚市立自然遊学館で保管されている (KCMN-C r 918)。

体はエビ形で、眼は頭胸甲の前縁で覆われ、第 1 歩脚が肥大して左右非対称の鉗脚になるテッポウエビ科の特徴を有し、大鉗（大きい方の鉗脚）の掌部に背鞍部と腹鞍部があることからエドワールテッポウエビ群に含まれる（西村編著、1995）。

エドワールテッポウエビ群には未記載種を含め類似種が多くあり、種の同定にあたっては野村 (1996) と吉郷 (2009) を参照した。腹部背面に横帯の模様が無く一様に暗褐色に見えること（図 1）、鉗脚の長節内側末端に



図 1. 採集個体の生体写真

尖った不動棘があること（図 2）、第 2 歩脚の 5 分節された腕節の第 1 分節と第 2 分節がほぼ同長であること（図 3）、これらの特徴から採集個体をカワテッポウエビと同定した。野村（1996）に記載されている第 3 歩脚長節後縁の可動棘数が約 14 本という特徴は、吉郷（2009）で長節は前節の間違いと指摘されており、棘の数は一部の個体ではやや少ない 10～14 本とされている。本報告の採集個体では第 3 歩脚前節後縁の可動棘数は 11 本であった。

採集個体は小鉗の指部に毛冠列を有することから雄であった。

分布記録および考察

カワテッポウエビは国内では福島県、千葉県、神奈川県、静岡県、兵庫県、和歌山県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県での採集が報告されている（野村、1996、2022；吉郷、2009；山川・山下、2023、2025；山川ほか 2022、2025；和田ほか、2022）。本州の太平洋岸地域の河口や南西諸島からの記録が多いことから、黒潮の影響が強い地域の河口部に出現する南方系の種だと考えられる。山川ほか

（2025）では 2024 年に兵庫県南あわじ市で抱卵雌 1 個体の採集が報告されており、本報告の落合川の記録とは採集された年・地点の近い記録である。

大阪府および大阪湾の河口干潟では大阪湾生き物一斉調査などの生物調査が精力的に行われているが、これまで本種の記録は無かった。大阪湾の河口干潟でよく出現するテッポウエビ科にはテッポウエビ *Alpheus brevicristatus* De Haan, 1844 や、吉郷（2009）に記載があるテッポウエビ属の一種 *E. Alpheus* sp. *E. sense* Yoshigou, 2009 などがあるが、これらの種とカワテッポウエビは鉗脚の形態や腹部の色彩（横帯模様の有無）で容易に区別できるため誤同定は起きにくいと考えられる。そのためカワテッポウエビは近年になって大阪湾や周辺の海域に出現した可能性が高い。現時点で大阪湾に定着・再生産しているかどうかは不明であるが、今後も落合川や大阪湾の他の河口干潟で出現するかどうか注目していく必要がある。

おわりに

岬町の落合川は、大阪府下で記録の少ない希少な貝類や底生生物が数多く記録されており（石田ほか、2014；大古場、2020a、2020b；和田、2025）、紀淡海峡に近いために紀伊水道を通じて暖流の影響も受けやすいと考えられ、本報告のカワテッポウエビのような南方系の種も出現する。大阪府レッドリスト 2014 では東川河口（＝落合川）は希少な野生動植物が生息・生育し、種の多様性が



図 2. 鉗脚の長節内側末端の不動棘（矢印部分）



図 3. 第 2 歩脚腕節の第 1 分節と第 2 分節

高い地域として生物多様性ホットスポットCランクに選定されており（大阪生物多様性保全ネットワーク編、2014）、今後も良好な環境が維持されていくことが望まれる。

謝辞

本報告を書くにあたり、貝塚市立自然遊学館の山田浩二学芸員には標本の登録でお世話になった。

引用文献・参考文献

- 石田 惣・山田浩二・山西良平・和田太一・渡部哲也（2014）大阪府の汽水域・砂浜域の無脊椎動物および藻類相．自然史研究、3（15）：237-271.
- 大阪生物多様性保全ネットワーク編（2014）大阪府レッドリスト2014．大阪府環境農林水産部みどり・都市環境室みどり推進課、大阪．48pp.
- 西村三郎編著（1995）原色検索日本海岸動物図鑑〔Ⅱ〕．保育社，大阪．xii + 663pp.，144pls.
- 野村恵一（1996）カワテッポウエビ（仮称）．マリンパビリオン、25（8）：43.
- 野村恵一（2022）カワテッポウエビ．In 和歌山県環境生活部環境政策局（編），保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブッカー〔2022 年改訂版〕、p. 482. 和歌山県環境生活部環境政策局，和歌山.
- 大古場 正（2020a）大阪府で産出した注目すべき干潟の貝類Ⅰ．自然遊学館だより、96：2-3.
- 大古場 正（2020b）大阪府で産出した注目すべき干潟の貝類Ⅱ．自然遊学館だより、97：1-2.
- 和田恵次・横山耕作・多留聖典・海上智央・横岡博之（2022）ゆかし潟（和歌山県那智勝浦町）の大型底生動物相．南紀生物、64（1）：26-31.
- 和田太一（2025）貝塚市近木川干潟再生地および岬町落合川で見つかった希少貝類3種．貝塚の自然、24：1-6.
- 山川宇宙・鎗田めぐ・金森さりい・山下龍之丞（2025）兵庫県南あわじ市から得られた瀬戸内海沿岸初記録のカワテッポウエビ．徳島県立博物館研究報告、35：187-189.
- 山川宇宙・是枝伶旺・碧木健人（2022）神奈川県、静岡県および鹿児島県で採集されたカワテッポウエビ．ニッチェ・ライフ、(9)：7-10.
- 山川宇宙・山下龍之丞（2023）千葉県で採集された東限記録のカワテッポウエビ．ニッチェ・ライフ、(11)：40-42.
- 山川宇宙・山下龍之丞（2025）福島県藤原川で採取された北限記録のカワテッポウエビ．みちのくベントス、9：11-16.
- 吉郷英範（2009）日本の河口域とアンキアラインで確認されたテッポウエビ科エビ類（甲殻類：エビ目）．比和科学博物館研究報告、(50)：221-273，pls. 1-4.